

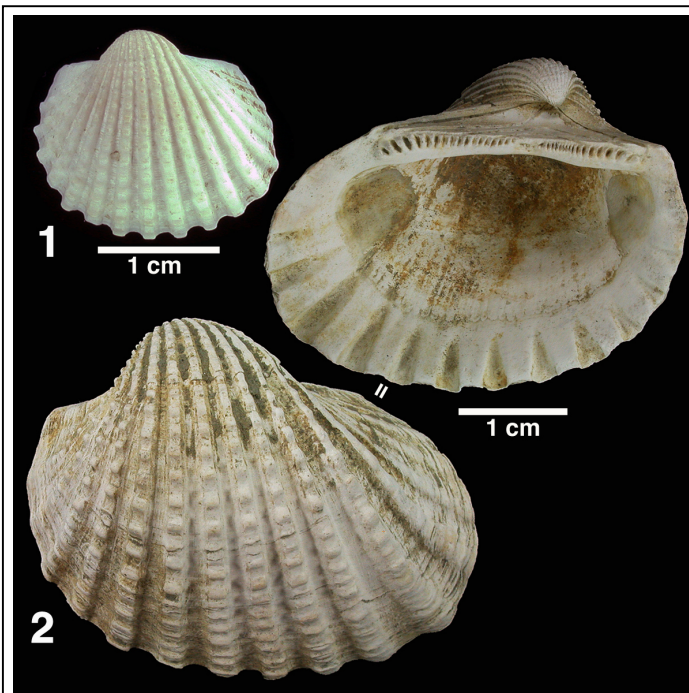
ハイガイ *Tegillarca granosa* (Linnaeus)

【選定理由】

本種は内湾奥の泥質干潟に生息する種で、かつて東京湾以南の閉鎖性の内湾に広く分布していたが、現在では瀬戸内海のごく一部と有明海でのみ生息が確認されている (和田・他, 1996)。本種は 1960 年代には衣浦湾 (知多湾奥)、汐川干潟などの内湾奥で比較的普通に生息していた (愛知県科学教育センター, 1967) が、衣浦湾の生息地は埋め立てられ、近年では庄内川河口・矢作川河口・汐川干潟などで古い死殻が稀に採集される程度で、絶滅と評価された。

【形態】

殻長約 50 mm、殻は厚く、よく膨らむ。殻表には結節を備えた強い肋が約 18 本ある。殻は白色であるが、生時には灰褐色の殻皮で覆われる。



1: 名古屋市金城ふ頭サンドポンプ, 1978 年頃, 河合秀高採集,
2: 田原市汐川干潟, 1993 年 11 月 4 日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では絶滅した。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、東南アジア、インド。かつて国内では東京湾以南から九州まで分布するとされていたが、現在では上述の通りの限られた水域にのみ分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような内湾奥の泥質干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減し、絶滅したと考えられる。

【特記事項】

水産庁・水産資源保護協会 (1994) では希少にランクされている。

【引用文献】

水産庁・水産資源保護協会, 1994. 軟体動物. 日本の希少な野生水産生物に関する基礎資料(I), 123pp.

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)